# 15［評論］『マリー・キュリーの挑戦』

　キュリー夫人が一グラムのラジウムを受け取るために、一九二一年に初めてアメリカを訪れて、時の大統領ウォレン・ハーディングに迎えられたときのことです。大統領は「気高い女性であり、またａケンシン的な妻であり、やさしい母でもあり、その重く困難な仕事に加えて、女性としてのつとめをすべてはたした人」と、この女性を讃えました。

　この旅行は、一人のアメリカ人女性ジャーナリスト、ミッシー・メロニーの発案によってなされたものです。ラジウムの発見者として世界的に有名なキュリー夫人の研究所に、「ラジウムが足りない」という信じられない話を聞いたミッシーは、アメリカの婦人団体に働きかけて、巨額の寄付金をかき集めました。これをマリー（キュリー夫人のファーストネーム）のアメリカ滞在費や、彼女にｂゾウテイするラジウムの購入費に充てるのです。こうすることで、特許を取ることをいさぎよしとせず、ラジウムの作成方法を無償で世界に提供した偉大な女性に対する、アメリカ女性たちのｃショウサンの気持ちを表わそうとしたのです。

　それにしてもアメリカの女性たちは、どうしてこれほど熱心にマリーのために働いてくれたのでしょう。もちろん当時の欧米では、中流階級の女性たちの団体はさまざまな寄付金集めをしていたのですが、これはよくある慈善運動とは違います。たぶんマリーに寄付をした女性たちは、自分たちにとってのある種の理想として、マリーをとらえていたのだと思います。一九二一年というこの時期は、アメリカ女性が参政権をｄカクトクした直後のことで、教育についてはすでにたくさんの女子大があり、多くの女性が高等教育を受けていました。

　［　　Ａ　　］津田梅子（一八六四～一九二九）が、マリーがソルボンヌにいたのと同じ頃に、アメリカのブリンマー女子大学で生物学を修めたのは有名な話です。このとき彼女の指導をしたのは、後にノーベル医学・生理学賞を受賞するトーマス・モーガンでした。

　［　　Ｂ　　］多くの場合、卒業後の彼女たちを待っていたのは、受けた教育にふさわしい社会生活ではありませんでした。帰国した梅子は、教育を受けた日本女性の可能性があまりにも少ないことに苦しみますが、アメリカに残っても、程度の差はあれ、やはり女性であるための困難に悩んだでしょう。ランドルフ・メイコン女子大学で教育をうけたノーベル賞作家パール・バックが、高等教育をうけながらその成果を生かせずにとしているアメリカ女性たちのことを、「火薬の女性」と命名しています。

　「火薬の女性」たちにとって、マリーは理想です。というのも、マリーは受けた教育を完全に活かし、社会の役に立つ偉業をなしとげ、そのうえハーディング大統領の言葉が示しているように、夫（このときは未亡人でしたが）と子供がいるのです。アメリカ女性、いいえ世界中の多くの女性たちにとって、マリーは①すべてを手に入れた女性だと見なされていたに違いありません。しかしこういう考え方は、じつはジェンダーのなのです。

　ここでちょっと、ハーディング大統領の言葉について考えてみましょう。何かおかしいと思いませんか。［　　Ｃ　　］アメリカに来たのがピエールだったら、つまり事故死したのがマリーで、やもめのピエールが娘と一緒にワシントンに来たのだとしたら、大統領はピエールに向かって、「男性としての務めをすべて果たした優しい父親」と彼を讃えたでしょうか。まずありえないでしょう。直接言うことはないかもしれませんが、「早く再婚して、新しい妻に身の回りの世話や娘たちのｅメンドウを見てもらえばいいのに」と思ったにちがいありません。これがいわゆる②ジェンダー・バイアスというものです。そしてマリーの人気は、このバイアスに大きく依存しているのです。

●語注

津田梅子＝女子教育者。津田塾大学の創立者。

ジェンダー・バイアス＝社会的・文化的性差別または偏見。

問１　二重傍線部ａ～ｅのカタカナを漢字に直せ。2点×5

ａ〔　　　　　〕　ｂ〔　　　　　〕　ｃ〔　　　　　〕　ｄ〔　　　　　〕　ｅ〔　　　　　〕

問２　空欄Ａ～Ｃに入る適当な語句をそれぞれ次から選べ。

ア　そして　　イ　しかし　　ウ　やがて 3点×3

エ　もし　　　オ　たとえば

Ａ〔　　　〕　Ｂ〔　　　〕　Ｃ〔　　　〕

問３　キュリー夫人がアメリカで歓迎された理由として、適当でないものを次から一つ選べ。7点

ア　キュリー夫人が、社会の役に立つ偉業をなしとげた人物だったから。

イ　キュリー夫人が、ラジウムの作成方法を無償で世界に提供した偉大な女性だから。

ウ　キュリー夫人が、自分の受けた教育を完全に活かした人であったから。

エ　キュリー夫人が、ケンシン的な妻であり、やさしい母でもあったから。

オ　キュリー夫人が、「火薬の女性」の一人であったから。

問４　傍線部①の「すべて」に含まれないものを次から一つ選べ。7点

ア　名誉　　イ　社会貢献　　ウ　資産

エ　家庭　　オ　高等教育

〔　　　〕

問５　傍線部②とあるが、筆者がハーディング大統領の女性観に「ジェンダー・バイアス」があると考えているのはどのような点か答えよ。8点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問６　傍線部②の事例として該当するものを次から三つ選べ。 3点×3

ア　男子の家庭科必修

イ　女性は社会性に乏しい

ウ　子育ては妻の役割

エ　女性の乳がん検診

オ　男性にはリーダー性がある

〔　　　〕

【解答】

問１　ａ献身　ｂ贈呈　ｃ賞賛（称賛）　ｄ獲得　ｅ面倒

問２　Ａ＝オ　Ｂ＝イ　Ｃ＝エ

問３　オ

問４　ウ

問５　女性は、妻や母の役目を果たすべきと考えている点。

問６　イ・ウ・オ

■覚えておきたい語句

□2　献身的…………………自己を犠牲にしても他のために尽くすさま。

□27　ジェンダー……………社会的・文化的に形成される性差。

〔要　約〕

［1］段落　　　…キュリー夫人のアメリカ来訪の話題を提示。

［4］・［5］段落 …彼女はアメリカで高等教育を受けた女性たちの理想であった。

［6］段落　　　…それにはジェンダーの罠があった。（筆者の結論）

［7］段落　　　…大統領の言葉にあるジェンダー・バイアスの説明。

　　　　　↓

キュリー夫人は、高等教育を活かし、社会の役に立つ偉業をなしとげ、かつ妻・母として幸福な家庭を持った女性として世界の女性の理想と見られた。しかし、このような考え方にはジェンダー・バイアスが存在している。（100字）

〈筆者＆出典〉川島慶子（かわしま・けいこ）一九五九年（昭和34）兵庫県生まれ。京都大学理学部卒業。名古屋工業大学教授。専門は、一八世紀フランスの科学史。本文は、『マリー・キュリーの挑戦─科学・ジェンダー・戦争─』（トランスビュー、二〇一〇年）による。

【読みのセオリー】

★言葉の定義をおさえる

　文章の核になる言葉は、文章の中で定義されていたり、きちんと説明されていたりすることが多い。その言葉の前後を丁寧に読み、どのような意味で用いられているかをきちんと把握して問題に取り組むことが大事である。ハーディング大統領は、マリーをどのように評価しているか。そこに「ジェンダー・バイアス」の意味を考える手がかりがある。

■読みのセオリー［実践］言葉の定義をおさえる

問６

　ジェンダー・バイアスとは？

社会的・文化的

［１　　　　］または［２　　　　］

・男子の家庭科必修

　　↓

　女子も家庭科［３　　　　］

　男女の違いは［４　ある／ない　］（どちらかに○をつけよう）

・女性は社会性に乏しい

　　↓

　男性は？

　男女の違いがあると考えている？

・子育ては妻の役割

　　↓

　夫（男）は［５　　　　］をしなくてよいのか？

　男女で差があるか？

〔解答〕　１性差別　２偏見　３必修　４ない　５子育て

☆「セオラム補充問題」　問題は、次の３種類があります。

　　＊差し替え　　　……該当の問と差し替えるもの

　　＊追加　　　　　……同じ問で、追加された問題

　　＊新問　　　　　……追加可能な新たな問題

＊差し替え

問４　27行目「こういう考え方」とはどのような考え方か説明せよ。

［答］　マリーを、すべてを手に入れた女性だと見なす考え方。

＊新問

問　24行目「社会の役に立つ偉業」とは何か。本文中から二〇字以内で抜き出せ。

［答］　ラジウムの作成方法を無償で世界に提供した

＊新問（6段落24行目「理想」を空欄にして）

問　空欄に入る適当な語句を本文中から抜き出して答えよ。

［答］　理想